

# 日本人の性格形成と風土

橋 田 義 雄

## 目 次

- (一) 複雑多様化する日本人の性格
  - (二) 性格形成ということ
    - (1) 遺伝と環境
    - (2) 風土
    - (3) 東北日本型と西南日本型
    - (4) 都市型と農村型
  - (三) 風土と日本人の性格
    - (1) モンスーンの性格
    - (2) 儒教と仏教
- 結 語

### (一) 複雑多様化する日本人の性格

戦後の日本は急スピードで敗戦から立ち直り、経済的豊かさにおいては、勝利国家群を抜いて、後進国に愛の献金をする所まで、成長発展した。このめざましい発展は、世界の国々の驚異的となり、異常な関心が日本人に対して向けられる結果になった。

在日フランス人の Paul, Bonnel<sup>(1)</sup>は“不思議の国日本” Le Japon Déshabillé Par un Français という本を出版している。この書の中に“過保護新幹線”というテーマの一節がある。“日本の列車はヨーロッパの列車に比べて全くその趣を異にする”と力をこめて述べている。

---

1) Paul, Bonnel …… Le Japon Déshabillé Par un Français.

ヨーロッパでは、時間がくると汽車はスーッと出発する。駅のアナウンスというものはほとんどない。だが日本の列車はアナウンスに始まりアナウンスに終わる。列車が出発する数分前になると“間もなく出発致します、お見送りの方は……”とアナウンスがある。始発駅を出るとまず、車輪編成について懇切丁寧な説明がある。“1号車から4号車までは自由席、5号車から16号車までは……”という具合に、次から次に子供達に、かんで含めるように説明する。更に屑物入れのありかまで指示し屑物処理のご協力迄願う、外人の目には驚く程の入念さである。

乗り込んでからも次々に各地の土産物を売りにくる。こういうこともヨーロッパの汽車では殆んどない。又、ヨーロッパの汽車で中食をしようとするれば、乗る時に必ず予約しておかねばならない、予約数に応じて作るのだから、頼みもしないで行ったところで断られるだけである。然し日本の新幹線に乗ると、次々に弁当を売りにくる、名古屋につけば、名古屋の、静岡につけば静岡の特産物がみやげ物として売りにくる。至れり尽せりの親切な接遇というのはヨーロッパでは到底見ることのできない尊い姿である。

こんな日本の鉄道なのに、どうして年の暮の最も忙しい時に限って、ストライキをして、国民の足を奪うのであろうか、大衆の迷惑を足がかりにして、要求貫徹を果さんとする労組の姿勢がどうしてでてくるのであろうか、全く矛盾するのである。ここが外国人には理解し難いのである。

現今の如く、数十万人の日本人がグループをなして外国に出てゆく段階になれば、日本人の性格というものを改めて見直して見なければならぬ。と“進歩の怪物ル・ジャポン”という本の中で、デュラシスは述べている。

アメリカのルースベネディクトの“菊と刀”という本は、終戦後の日本をGHQがうまく支配するためには、日本人の心理を理解する必要があるとしてベネディクト夫人に依頼して調査し整理した出版物で、昭和21年に完成している。古くはなったが、日本人の性格を菊と刀の二面性にわけて面白く描写している。

日本人は刀というものを家宝として非常に大切にす、床の間などに飾っているが、それは武の国であり、戦の国である日本を象徴するもので、日本人は

好戦国民であると結論づけている。

それにもかかわらず、日本人は、その刀のつかに菊の模様等で美しく装飾を施している。武の傍に美がよりそった姿で、戦に用いる凄まじい刀を荒御魂（あらみたま）とし、荒御魂は美しく、優美な花によって飾られている。即ち荒御魂が和御魂を飾っているというのである。

この刀に象徴されるように、日本人の性格は武なのかそれとも美なのか、両者はどこで統一されているのか、非常に不可解で、不思議な国民性をもっているとし、生活の万般にわたって二面性による説明をしている。

日本人は非常に清潔を好み、家の清掃、床の間の飾り、庭の造り等、非常に清潔で整頓好きな性格である。それにもかかわらず、公園、街路、汽車等を見れば、塵埃は散乱し器物は破損して見られたものではない。一方では、すごく清潔で礼儀正しいにもかかわらず、公德心というものは、まさに驚くほどの未熟さで巷にさらけ出されている、と報告している。外国人から見ると日本人は非常に複雑で捉えにくい国民性の所有者なのである。

デュラシスの<sup>(2)</sup>“進歩の怪物”には、日本人に対する非難の言葉が各所に出ているが、彼は戦後の日本人を次のように評している。

## (2) Jean-François Delassus; Le Japon: Monstre ou Modele?

日本は敗戦国であるにもかかわらず、いち早く立ち直った。かくの如く早く立ち直った国は少ないだろう。そしてエコノミカルアニマルという経済大国の地位を築き上げた。その意味において素晴らしく勤勉で、頭の回転がよくて、知能的な日本人をわれわれは認識せざるを得ない。

その日本人が、長く伝統的に築き上げたそれぞれの史蹟、名所、風物や山花草木の美しい自然を、何故ブルドーザーの下に打壊していくのであろうか、メリメリと破壊され掘り起されてゆくかつての史蹟や名勝を見るにつけても、われわれ外国人でさえ痛ましく感ぜられるのに、どうして日本人は抵抗感を感じないのであろうか。所得番付を見ると1位2位という所に土地成金が名を連ねている、驚くべき事である、とデュラシスは非難的な言葉で述べているが、なる程、正に然りと私達も痛感せざるを得ない。

トケイヤーの“日本買いませんか”という書の中には、ヤクザの国日本は、今や衆議院参議院の議会の中にまで、そのヤクザ的風格が滲み出てきている事を指摘している、純粹で潔白な事をモットーにしてきた日本人が、今では、時の総理大臣から、市町村長、村会議員に至るまで、汚職ということで新聞紙上を賑わさない日は殆んどない。しかもそのやり方が、国家の重要な取り引きの問題にからみあっていて、数億の金が一個人の懐に流入している。かくの如き政治家が次々に出て、跡をたたない。金さえ出せば日本人は、時の重要人物でさえも、買えるぞと痛罵している。日本人自身は、ああ又かという風で一向に関心がない、否、むしろ事はその逆で、次の選挙の時には、汚職議員が同情票をかき集めて当選してくるという、こうした日本人の姿の中に、歪められた日本人の性格が如何にゆがめられているかと嘆かざるを得ない。一体日本人の性格というのは、汚職というものを惹き起し易い特性を有しているのだろうか、否、さに非づして、精神的に病める1つの現象として、発生しているのではないか、随って一刻も早く正常な状態に健康回復をはかるべきではないかと、私は痛感するものである。

以下は色々な問題を外国人にまで、投げかけている日本人の性格を、複雑多岐で困難な事ではあるが、探究して見ようというのである。

## (二) 性格形成ということ

### (1) 遺伝と環境

性格の形成は、遺伝的な素質と、それをとりまく環境との相互関係による。吾々が如何に力んで運動競技に精を出しても日本人の身長という一つの平均値は容易に変容するものではない。努力による若干の成長発達は認められるが、遺伝としての要素はまことに大なるものがある。髪の色、瞳の色、皮膚の色、黄色さ等は、変え様としても変える事の出来ないものである。

性格の形成が主として遺伝的なものであるのか、それとも環境が大きく性格を左右するものであるのか、

$$B=f(P \cdot E)$$

B~Behavior P~Personality E~Environment

人間の行動は人格と環境の涵数関係にあるという、心理学の公式を転用すれば、性格は素質と環境との涵数関係という事になる。遺伝的要素が大きい場合と環境的要素が大きい場合とがあるわけである。

## (2) 風土

環境として性格に大きな影響を与えるものの一つに風土がある。風土というのは地勢・産物・気候等自然の状態をいうのであるが、日本列島は、北は北海道から南は沖縄まで、2,300kmの列島である、随って北の国は非常に寒い様相を呈しているのに、南の国は熱帯性気候にあるという風に、寒帯・温帯・熱帯の夫々の風土を異にしている。そこには必然的に、寒い国に育った者と暑い国に育った者とは、風俗・習慣・言語を異にする結果となる。これ等生活の重要な要素を異にすれば性格も又自ら異なるところ大なるものがあるのは当然の事であろう。

しかも今日のように、交通機関が発達し、情報社会が多様化するに及んでは、東西遠隔の地と雖ども、居ながらにして通信し、東の国から西の国へ数時間を待たずして移動するという現状に至っては、寒帯育ちも熱帯育ちも混在して住居を構える事となる。随って都市社会においては、様々の性格をもった者が隣りあわせている。一体日本人は寒帯的な性格なのか、それとも熱帯的性格なのかと考察しようとしても容易に裁断し得ないのである。

## (3) 東北日本型と西南日本型

古くからの日本人の性格を捉えようとすれば、東北日本型の人間なのか、西南日本型の人間なのかを類別して考察する必要がある。寒い地域の風土性と熱い地域の風土性とが大きく影響している筈である。ここでは今その論究は止めることにして本論を進めることにしよう。

#### (4) 都市型と農村型

都市に住む住民と、農村に住む住民とでは、自らにして生活様式が異なるように、その性格も異なってくる。都市型住民の人間関係は砂の集団であり、農村のそれは粘土であると総括する事ができよう。

農村社会に他地域の人が入りこんで住むということは仲々に困難で、たやすく入り込み得るものではない。そこに古くからの人間関係組織が複雑多岐にできあがっていて、上下の縦型組織が成立し、その枠組の中に位置するのは容易ではないのである。即ち粘土のかたまりだという意味なのである。

これに反し、都市型は、人間関係が砂のように、固まらずにサラッとしている。隣は誰が住む人ぞ、という位で、隣家の事等別に気にもかけないという気風がある。福岡県でも、大野城市とか春日市等のように昔は農村型であったのに、急に人口が増加し、各地からの移住者がふえて、都市的傾向を帯びてきたところでは、何かの話しあいをする場合でも、農村型の昔からのタイプと都市型の市民性を持つ人達との意見の違いがくっきりとでてくるのである。嘗ては僻地学校であった牛頸村が、今日行って見ると僻地所か、大野城市の住宅地街となり、学校も1,200余の児童数を要するマンモス校となっている。町名も城南ヶ丘とかえている。このような土地では農村型の粘土的性格と都市型の砂的性格が入りまじって、統一するのがむずかしいのである。城南ヶ丘と名づけただけに、丘陵地帯が整地されて宅地となり、いわゆる中流の生活様式をもった人達が流れ込んで住宅街を築いている。彼等の多くが30坪内外の住宅を中心に50坪内外の宅地をブロックで囲んでいる。玄関口を特に入念に構えて、うちとよその区別をつけ、近隣社会との交際を密にするよりも、むしろことはその逆で、疎遠を専にして、うちの者だけで固まりたいのである。近隣社会の子供会に入るよりも、うちの者だけで、マイカーにのって出かける方がより楽しいのである。即ち砂でありたいと思っている。町内の人達による運動会に出るよりも、家族だけでピクニックに出た方がよいのである。ところが農村型はそうではない。氏神様中心のお祭りをみんなで楽しんだり、伝統的な地域の行事に熱中する。

今日の日本人の集団生活は、夫々、異なった性格の人達によって構成せられている。こうした視点をぬきにして日本人の性格を云々する事は困難だといわねばならぬ。

### (三) 風土と日本人の性格

人間の性格形成の過程は遺伝的素質とそれをめぐる自然環境・社会環境・家庭環境の影響によって展開する事は一般に認められた公式である。

風土というのは個人を取巻く自然環境である。山河草木の風景とその成育に直接関係ある春夏秋冬の気候と人間の生活に直接する生活資源の様態とが風土である。

熱帯地方に産する木材と、日本産の杉や桧とを比較する時、日本産の木材は概して硬くきめが細かいのである。春夏秋冬と気候が変化し、暖かい春から暑い夏にかけて草木はすくすくと伸び、秋から冬にかけて厳しい風雪に鍛えられるのである。細かい年輪がそこに形成されている。

吾々人間においても道理は同じで、春夏秋冬に応じて衣服をとりかえている。厚い冬衣を身にまとう所に冬に処する人間の心理が展開する。春に芽を出し夏に花開く草花に接する時、人の心に花を愛し花を賞する心理が形成される。そこに情緒豊かな心情の細かい日本人の性格が成育するのである。

日本人はエコノミカルアニマルだと言われる。西欧の人達から見ると、ガツガツしながらよく働く、勤勉なのである。レジャーもとらずに残業する。残業が当然であるという働き方をする。したがって又こせこせすると称せられる。こうした評価は東南アジアの後進国の人達からも言われている。そのような性格を総称すれば島国根性というのであろうが、島国の狭い地域に犇めきあって住み、貧しい資源の中で生き延びるためには、のんびり、ゆったりした大陸的性格では、不可能である。

商店・商社・旅館・デパート等に接して見ても、日本の店員・社員の応待は非常にサービスの的である。商店に入れば“いらっしゃいませ”と迎える、笑顔の店員が腰を低くして接してくる。デパート等では買わないうちから、毎度

有難うございますと挨拶する、エレベーターガールが礼儀正しくえしゃくする。そうした様相を見る時、日本人は親切なのかと疑問に思う。私は、これは日本人の性格ではなく風土からくる生活技術だと思う。西欧のデパートで買物をして見ても、ドライブインに入って見ても、日本でうけるような、サービスはないし、笑顔もない。愛想のよさ等といったものはない、だからといって不親切ではない、殊更に意識してつとめないということである。彼等は客を競りあってひきつけなければならんという意識が乏しいのである。

島国日本ではそうはいかない。客の絶対数に限界がある、競争会社は犇めいている、魅力に乏しい商社は淘汰されてゆくのである。だからサービスをするのである、根っからの親切ではない、競争の中の企業だから、親切にせざるを得ないのである。

#### (1) モンスーンの性格

倫理哲学の和辻哲郎氏の“風土”という本がある。これは古典的な文献の中に入っているが、その人間学的考察は非常にしさに富んだ興味ある書である。

和辻氏は日本人の性格はモンスーン的であると力説している。モンスーンというのは気節風であるが、南方から湿気を帯びた風が日本に上陸する、そして雨となり、梅雨の頃という長期にわたる気節を毎年つくるのである。これは昔も今も変わりはない。

東支那海沿岸から台湾・朝鮮・日本列島は、その影響で多雨地帯なのである。人間いたるところに青山あり、という言葉が示すように、緑したたる田園や鬱蒼たる森林の中に日本人の生活があるのである。確かに現在の日本は工業立国といわれる、自動車工業の国であり、ラジオ、テレビ、写真機、時計等の精密機械の国でもある。然し国の成立から、生い立ちにいたる間の日本は農業立国である。

日本の農業は、ソ連やフランスのような、多雨でない地域の農業とは異なり放っておけばすぐに雑草が生えるのである。殊に稲作にしても蔬菜にしても春から秋にかけては草の繁茂は激しい。そこに日本の農業に並々ならぬ勤労心が



必要となる。江戸時代、明治時代戦前における農家は労力を無限の力であるかの如き認識の下に、朝早くから夜空に星をいただいて帰るといふ勤労を続けたのである。それが多雨地域の自然の要求でもあった。狭い日本の耕地に多量の生産物を獲るためには、手入れと施肥を人一倍しなければならない。

農業の型が違うところに性格の違いが出てくる、日本人の勤労精神は農業立国の勤労作業から発生していると思われる。

今展開されている日本人の親切も狭少な土地の上に競争的に営まれる乱立の企業に、生き残ろうとするところに発生する商売技術ではないかと思われる。

季節風がもたらす雨によって、農業がなり立つ、そこで古来から日本人は自然崇拜の信仰をもっている。米が収穫されると先ず神に捧げ報恩感謝の宗教心が自然の恵みに対する感謝の念から発生しいると見るべきであろう。季節風は時として台風となって猛威を振う。だが日本人はこの猛威に対して敵愾心を燃やすことなく従順にその威に服し、従順に猛威に耐えるという、対応を呈するのである。パールバックの“大地”では雨が降らず、日照りが続き土地がカラカラに乾いてしまう。ところが中国の農民はこの激しい早ばつに対し、憤怒の心をぶっつけて対抗しないのである。祭壇を設け神に祈り、神の心をやわらげるための供物を捧げるのである。忍従と受容、これが東洋民属の基本的性格であり日本人の特性であると和辻氏は結論する。

## (2) 儒教と仏教

このように、受容と忍従の性格が風土の上で、長い年月の間に培われて来たが、その基本的性格を一層強固に培養したのは、儒教と仏教であった。

仏教は慈愛の精神を説くのであるが、マホメット教とは異なり、目には目を、歯には歯をという説き方をしないのである。勿論、仏教の説き方にも、他力と自力とがあるので、その趣は異なるのであるが、一般大衆に最も大きな影響を及ぼしたのは、他力本願の念佛宗教である。南無阿弥陀仏と仏に帰依して念仏一図に生きるところに成仏安生を得ると説く大衆仏教は忍従と受容の態度が肯定されるわけである。信心深い門徒が、交通事故で脚を一本失っても、信仰心

があったればこそ、生命を救われて、脚一本で済んだんだという解釈と諦観とが納得させるのである。封建社会における上の命にハイハイと従順に従う国民性を仏教は助長するのに役立ったと言いたいのである。勿論仏教でもキリスト教でも、現実には一向宗の一揆が各地におこり、キリスト教でも天草の乱があった。しかし、それ等は、生か死のギリギリの段階に追いこまれた農民の最後の自己防禦の斗いであったのである。

受容と忍従の国民性を培養した今一つの文化は儒教である。儒教における、君臣・父子・夫婦・兄弟・朋友の五倫即ち5つの人間関係は、人間関係を上位に坐する者と下位に坐する者との上下関係にとらえている。

上位に坐す君に対して下位の臣は絶対服従の精神が説から、君君たらずとも臣臣たれの教えが成立するわけである。長い間、日本人は、父上という呼び名で父を尊び、殿様ということばで服従したのである、忠と孝の道徳が百行の中心として説かれて来たわけである。これは日本人の風土からくる忍従の精神に一つの論理を与える結果になったのである。

戦後において、これらの随順帰依の道徳が大きく是正され、人間性尊重の名の下に、自由と平等の人間関係が強調されてきている。上下倫理と左右倫理の岐路に我々は今立たされている。人間の自由、平等は、親と子、夫と妻、兄と弟という分の倫理においては、何の考慮も払われる必要はないというのであろうか。

## 結 語

日本人の性格形成における風土の影響が、受容と忍従と勤勉という、性格形成をもたらし、それが儒教と仏教の伝来によって、論理的構造を与えられ、今次大戦への途を辿って来たという筋道を論述して来たわけである。

そうした日本倫理が終戦後、人間性尊重という個人倫理の洗礼をうけ、民主主義の名の下に現今の倫理が位置づけられている。

日本人の性格形成における今後の方向づけを如何に先導するか、この問題は

差別の問題として今後の大きな課題であるが、改めて論述して見たい。

(61. 9. 20)

### 参 考 文 献

- 昭和14年 日本的性格……………長谷川如是閑  
 “ 17 続日本的性格……………全 上  
 “ 36 日本人の国民性……………統計数理研究所  
 “ 37 日本人—文化とパーソナリティの  
 実証的研究……………村松 常雄  
 “ 45 風土と文化……………宮本 常一  
 “ 45 風土と歴史……………飯沼 二郎  
 “ 48 日本人の国民性における  
 連続と変化……………祖父江孝男  
 “ 10 風土；人間学的考察……………和辻 哲郎  
 “ 43 日本人社会と国民性……………祖父江孝男  
 “ 35 日本人の精神的風土……………飯塚 浩二  
 “ 35 日本人の社会意識……………福武 直  
 “ 44 日本人の性格……………宮城 音弥  
 “ 29 日本人の生活心理……………高木 正孝  
 “ 29 日本人の心理……………南 博  
 “ 31 菊と刀（上下）  
 The Chrysanthemus …………… Ruth Benedict and the sword.  
 “ 45 日本人の性格……………依田，築島編  
 “ 45 日本人，ユニークさの源泉……………Gregory clark, The Japanese  
 Fibe: Origins of a Nation’s Uniqueness.  
 “ 47 進歩の怪物ル・ジャポン……………Jean-François Delassus Le  
 Japon: Monstre ou Modele?  
 “ 48 不思議の国日本……………Paul, Bonnel, Le Japon Desh-  
 abille par un Français